

地域に視点をあてた事業展開 [障害]

イベントを通して障害者理解を深め住みやすい街づくりをめざす

かんなの里の基本目標は、「一人ひとりのより心豊かな生活の向上と暮らしやすい地域づくりをめざす」である。その実践として、できるだけ多くの地域住民に参加いただけるようなイベントを開催している。イベントの目的は、障害のある方と地域住民との交流と障害への理解促進である。

群馬県

社会福祉法人 **かんな会**

〒375-0036 群馬県藤岡市下栗須887-1

TEL : 0274-24-5885 FAX : 0274-24-6855

◇法人設立年

平成10年

◇法人実施事業

①経営施設（事業）数：3施設7事業

②経営施設・事業の種類：

障害者支援施設…1、短期入所事業…1、障害福祉サービス事業所…1、多機能型事業所…1、相談支援事業所…1、共同生活介護…1、障害者就労・生活支援センター…1

◇法人の理念・経営方針

<基本理念>

お互いに助け合い、共に生きる精神のもとに家庭的な雰囲気の中でひとりひとりが人として尊重されることを基本とする。

<基本方針>

- 1、利用する人のニーズに基づき、多様な福祉サービスを提供できるよう常に創意工夫する。
- 2、整理、整頓、清潔、節約を旨とする。
- 3、人としての尊厳を支える支援をする。
- 4、安全で快適な生活環境及び安心して人間的なかわりを持てる場を提供する。
- 5、より質の高いサービスを提供する。
- 6、専門職員としての資質の向上に努める。
- 7、地域福祉に貢献できる社会福祉法人をめざす。
- 8、経営能力の向上に努める。

◇取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

かんなの里

【施設種別及び利用定員】

障害者支援施設…施設入所支援 50名、生活介護 50名

◇活動内容

○活動開始年

平成12年4月

○活動の対象者

地域の障害児・者とその関係者、地域住民

○活動の頻度・時間

年2回：6月と1月（平成14年より）、1回あたり2時間～2時間半

◇活動実施の背景、実施にいたった理由

障害があっても、生きていて良かったと思える人生を送っていただきたいという願いのもとに、「かんなの里」は開設された。集団生活ではあるが、できる限り利用者一人ひとりに合わせ、個に寄り添った支援を心がけている。

かんなの里は藤岡市の市街地に隣接し、JR高崎線の新町駅、JR八高線の群馬藤岡駅に近く、関越自動車道のインターチェンジからも車で10分以内と、交通の便に恵まれている。さらに田園地帯であり、環境も良く、農協、小学校、公民館、図書館、コンビニ等は利用者が気軽に利用できる範囲にある。反面、地域住民から、「うるさい」、「勝手に庭に入られた」、「畑に施設内の雑草の種が飛ぶ」等、些細なことで苦情を言われたり、利用者がコンビニの陳列棚を倒してしまい多額の金額を請求されたりと、市街地に立地しているからこそその悩みもあった。そこで、支援の充実を第一に、それと同時に地域にいかに関係者を増やすかを考え、公共の施設を借りて大勢の人を巻き込むイベントをしようということになった。まず、理解者を増やすこととを考え、納涼祭以外に2つの大きなイベントを企画・実行し、現在に至っている。

◇実施内容

①藤華祭

かんなの里では一年の節目に、感謝の意味を込めて開催している。地域住民と利用者が楽しい時間を共有することにより、障害者に対しての理解を深めていただく場としている。また、かんなの里の利用者が元気で活躍する姿を見てもらうため、利用者によるミュージカルも第8回の藤華祭から上演している。毎回800～1,000人程度の参加がある。

・開催日時 毎年6月、午後2～3時間程度

・開催場所 みかぼみらい館大ホール（定員1,100人）

②地域支援セミナー

地域住民とかんなの里にかかわる親族、施設職員、幼稚園・保育所職員、特別支援教育に携わる教諭等、多くの方がたに障害者への理解を深めていただくためにセミナーを定期

的に開催している。毎回400人程度の参加がある。

- ・開催日時 毎年1月、午後に2時間程度
- ・開催場所 みかぼみらい館小ホール（定員400人）

◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

①藤華祭

利用者にとっては、例えばミュージカルに出演するという目標を持った練習を重ね、みかぼみらい館という大きな舞台で大勢の観客に見てもらえることで、自信につながっている。家族や、地域の方、他施設の方と触れ合う機会となっている。

職員にとっては、劇の演出から出演、衣装作りと全職員一丸となって行うので、チームワークの醸成につながり達成感もある。

地域にとっては、毎年恒例のことなので楽しみに来てくださる方がたがいる。また、利用者との触れ合いも楽しみにしていただいている。

②地域支援セミナー

職員はもちろんのこと、かんなの里にかかわる全ての方がた（幼稚園・保育所職員、特別支援教育に携わる教諭等）の研鑽を積む目的で開催している。障害者支援の専門的な勉強をする機会がないということで、大変喜ばれている。

職員が積極的に声かけをして、一般の方の参加もしやすくしている。施設の近隣の方に参加いただいたことで、施設に対しての理解が広がり、以前のようなトラブルがなくなった。利用者が地域のコンビニやデパート、図書館等に顔を出しても、フレンドリーに対応いただけるようになった。

◇今後の展開

藤華祭は今年の6月で11回目、地域支援セミナーも来年の1月で11回目と、共に2大継続事業となっている。

障害者支援施設は利用者が年々重度化しており、マンツーマンで付かなければならない利用者が増えてきた。マンパワー不足の現状があり、行事の企画や準備に人員・時間を割きづらくなっている。藤華祭では、これまでは全員参加であったものが、年々参加できない利用者・職員が増えてきている。

しかし、かんなの里の開設からの姿勢を守り続けようという職員の強い意識、周りの人の期待感

に応えるためにも、今後も続けていくつもりである。また、利用者による作品発表、作品販売の最良の場でもあるので、施設全体の宣伝効果も大きいと考えている。

◇主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
藤華祭の開催経費	600,000円	チケット販売、賛助金、施設教養娯楽費	600,000円
地域支援セミナーの開催経費	550,000円	県よりの助成、チケット販売、施設からの研修費	550,000円
<合計>	1,150,000円	<合計>	1,150,000円

- ・取り組みにかかわった職員数 30名
（職種等：施設の職員全員）

